

# Case 11

## タオルを使っていただくお客様のために タオルの洗濯による風合い変化の検討



◀ 研究に際して工場見学を実施

### Step 1

東京都青梅市に所在する老舗のタオルメーカー、ホットマン株式会社では、お客様に、より適切な状態でタオルを使用していただくために、タオルの風合いに及ぼす洗濯の影響について、より正確な情報を提供したいと考えていました。そのためには、タオルの洗濯に関する各種のデータが必要となります。そこで、2009年度より、被服整理学研究室に依頼し、研究を実施しました。



### Step 2

今年度は柔軟剤のタオルに及ぼす影響を検討するため、同社で製造された主力素材(糸の種類)を用いたタオルを実験材料として、洗濯・自然乾燥を300回まで繰り返し行い、タオルの風合い(柔らかさ・ふっくら感)・吸水性・好ましさに及ぼす柔軟剤の影響について検討しました。評価は幅広い年齢層の女性を対象に30回、100回、300回目に、実際に洗顔後タオルを使って貰う方法で行いました。



### Step 3

その結果、洗剤のみに比較し、柔軟剤の影響は顕著であり、種類や使用量の違いによって、洗濯後の柔らかさ・ふっくら感・吸水性・好ましさが異なることが示されました。また、香り付け目的などで過剰に使った場合、逆効果になる場合があることも分かりました。これらのデータは、学術的に貴重であるだけでなく、今後、同社がお客様に商品の取扱いを説明する際の資料として活用されます。



### topics

パートナーであるホットマンは、青梅市に所在する老舗のタオルメーカーです。研究にあたっては、タオルをよく知る必要があります。そこで、本研究は工場見学やスタッフの方との意見交換等により、タオルの製造や性状を理解することからスタートしました。

### data

- パートナー ホットマン株式会社
- 担当教員 藤居眞理子教授  
(現代生活学部生活デザイン学科)
- 実施期間 2009年9月～2012年3月